

第 62 回「言葉の院外処方箋」

『ゲノム医療と遺伝医療 ～ 「病気は個性である」 ～』

新渡戸稲造記念センター 長 樋野興夫

2021年6月18日WEB開催 第27回 日本遺伝腫瘍学会「がんゲノム医療と遺伝医療 ～ ボーダレス化のなかで躍動する ～」に参加した(画像)。今回は、赤木究 会長(埼玉県立がんセンター)、向原徹 副会長(国立がん研究センター東病院)の主催である。思えば、筆者は、霞富士雄 先生と第4回の会長(1998年6月27-28日;東京大学山上会館)を務めた。そして、筆者は、本学会の第2代目 理事長(初代:宇都宮譲二 先生、第2代:樋野興夫、第3代:富田尚裕 先生、第4代:石田秀行 先生)を歴任した。

石田秀行 現理事長は『3代の理事長の強力なリーダーシップのもとで築きあげられた本学会の伝統に思いを馳せますと、この上ない光栄とともに 身が引き締まる思いです。本学会の継続的な発展に寄与できるよう微力ながら鋭意尽力して参る所存です。さて、本学会は1990年に発足した遺伝性大腸癌の研究グループに端を発し、日本家族性腫瘍研究会(1994年～)、日本家族性腫瘍学会(2005年～、2016年法人化)を経て2019年より「一般社団法人 日本遺伝性腫瘍学会」として、新たなスタートを切っています。本学会の活動の主な目的は、あらゆる遺伝性腫瘍・関連疾患に関する診療・教育・研究に貢献することです。遺伝性腫瘍とその関連疾患に焦点を絞り、臨床医、基礎研究者、看護師、遺伝カウンセラー等のメディカルスタッフが一堂に会し、緊密に連携しながら学術活動を行う学会は世界的にみてもきわめて少なく、わが国では本学会が唯一の存在です。近年のがんゲノム医療や遺伝子診断の急速な進歩、遺伝性乳がん卵巣がん症候群のリスク低減手術に対する社会的関心の高まり、遺伝性腫瘍に有効性の高い薬物療法の新知見等と相まって、遺伝性腫瘍の正しい理解と適切な医療の提供に果たす本学会の役割について、多くの方々からのご支持を頂けるようになりました。正会員数も年々飛躍的に増加して現在1500名を超え、近い将来2000名に達することが予想されます。』と紹介されている。時代の流れを感じ、大いに感動した。

招待講演「なぜ 21 世紀はゲノムの世紀なのか?」、特別講演「がんゲノム医療時代の遺伝性腫瘍 ～ 診療の実際と課題 ～」、海外招待講演「Neoadjuvant immunotherapy in colon cancer:ready for prime time?」、会長企画1「日本における Li-Fraumeni 症候群の現状と将来展望」、イブニングセミナー「がんゲノム医療におけるリッキドバイオプシー-NGS 時代の幕開け」を聴講した。スタッフの皆様の真摯な姿には、ただただ感謝である。

筆者の アメリカ時代の Mentor 「遺伝性癌」の父: Alfred George Knudson, Jr. (1922-2016) からの学びの 5 か条は、

- (1) 『複雑な問題を焦点を絞り単純化する』
- (2) 『自らの強みを基盤にする』
- (3) 『無くてならないものは多くない』
- (4) 『無くてよいものに縛られるな』
- (5) 『Red herring (相手をその気にさせて 間違っただ方向に行かせる) に気をつけよ』

である。日進月歩の医学は、日々勉強である。「病気であっても病人ではない!」、「病気は個性である」、「遺伝病も単なる個性である」が、人類の進むべき方向であろう!



がんゲノム医療と遺伝医療
～ボーダレス化のなかで躍動する～

第27回

日本**遺**伝**性**腫瘍**学**会 学術集会

WEB
開催

2021.

6/18(金)▶19(土)

会長 **赤木 究** 埼玉県立がんセンター 腫瘍診断・予防科
会長 **向原 徹** 国立がん研究センター東病院 腫瘍内科

演題登録期間

2021年1月20日(水)▶3月5日(金)正午

<http://jsht27.umin.jp/>

大会事務局 埼玉県立がんセンター 腫瘍診断・予防科
〒362-0806 埼玉県北足立郡伊奈町小室 780

運営事務局 株式会社サンプラネット メディカルコンベンション事業部
〒112-0012 東京都文京区大塚 3-5-10 住友成泉小石川ビル 6F
TEL:03-5940-2614 FAX:03-3942-6396 E-mail:jsht27@sunpla-mcv.com